

文 書 質 問 通 告 一 覧 表 (7 月)

令和 5 年 7 月 3 日

1. 熱中症への備えを	気候変動の影響で「災害級」の危険な暑さが繰り返される中、住民の命が失われないようにするため、国や自治体が危機感を持って対策を強化することが重要となっている。熱中症で救急搬送される人は毎年数万人を超え、死亡する人も近年は年1, 000人を超えている。 気象庁は今夏も猛暑日が増える可能性があるとして発表している。物価高騰で昨年夏も電気代を気にして、エアコン使用を控えた人もいる。その中で政府は5月電気料金の大幅値上げを了承した。このままでは昨年以上にエアコン使用を我慢する人が増加する危険があり、命に関わる大問題である。今年、本町において熱中症の疑いで救急搬送されたのは、すでに子どもが1件、搬送には至らなかった件数は3件で、令和元年度以降、高齢者を中心に年に数件、多い時で8件搬送されている。 このような中、政府は令和3年度から今年度まで熱中症対策の推進モデル事業に取り組んでいるが、エアコン設置費用への補助金はない。 また、多くの町民が来庁する役場庁舎には網戸がなく、エアコンも設置されてない部署がほとんどで、職員一人1台以上のパソコンを設置しながらの勤務のため、室温も上昇し、場所によっては西陽も強く差し込み、快適な職場環境とはいえない状況になっている。職場の労働安全環境を良くする事は職員のみならず住民サービスの向上にもつながると考える。 そこで、以下の3点伺う。 ① 異常な暑さの中勤務する職員等の健康を心配する町民の声も聞くが、役場庁舎のエアコン設置についての考えは。 ② 政府に対し、「指定暑熱避難施設(クーリングシェルター)」の指定とする予定施設へのエアコン設置費補助など実効性ある施策を求める考えは。 ③ 今後、災害時の避難所にも順次エアコンを設置する考えは。	3 番 重 山 雅 世
--------------------	--	------------------------